ふくやま草戸千軒ミュージアム ニュース

～第127号～

広島県立歴史博物館

HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

「守屋（もりや） 壽（ひさし）コレクション」常設展示 OPEN!

左：ラングレン「東アジア図」　守屋壽コレクション,当館蔵
（「西洋製の日本地図」展から）
上：守屋壽コレクション展示コーナーの様子

昨年10月,国内最大級の古地図コレクションとして注目を集めてきた「守屋壽コレクション」が当館に寄贈されました。このコレクションは,福山市出身で東京都在住の守屋壽氏が,30年以上にわたり丹念に蒐集（しゅうしゅう）してこられた西洋や日本の古地図,近世の日本と海外との交流を示す内外の絵画や歴史資料,福山や鞆など広島県域の歴史に関わる資料など総点数1,000点を超える一大資料群です。

当館では,この貴重な資料群の寄贈を受け,今年4月から当館2階の近世文化展示室で常設展示として紹介しています。展示は2か月ごとにテーマを設定し,展示資料の入れ替えをしながら,コレクションの持つ多彩な魅力を紹介していきます。

なお,近世文化展示室では,重要文化財「菅茶山関係資料」を柱に,江戸時代の文化を発信する展示も引き続き2か月ごとに入れ替えながら紹介します。こちらも御期待ください。

会　　期	展示テーマ	
	守屋壽コレクション	菅茶山関係資料
令和3年6月4日（金）～8月1日（日）	西洋製の日本地図	菅茶山と岡山の文人たち
令和3年8月6日（金）～9月26日（日）	蘭学と地図	茶山が収集したモノ
令和3年10月1日（金）～11月28日（日）	近世の港町と鞆の浦	菅茶山と鞆の浦
令和3年12月3日（金）～令和4年1月30日（日）	朝鮮通信使と琉球使節	長寿を寿ぐ
令和4年2月5日（土）～3月27日（日）	ペリー来航と幕末	菅茶山の家族たち

最近の調査・研究から１

「草戸千軒」の古地名から分かること

「草戸千軒町遺跡」の中世の港町としての調査研究成果は，次のようにまとめられ，ここ，広島県立歴史博物館で展示・公開・活用されています。

- ◆「草戸千軒」の町は13世紀中頃に港・市として成立
- ◆14世紀になると問・土倉が成長し，15世紀後半頃まで流通・金融活動が活発化
- ◆15世紀末頃に流通・金融活動が急速に衰退
- ◆16世紀初頭頃，町が一気に消滅

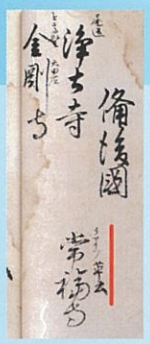
「草津」（1343年）
↓
「草井地」（1351年）
↓
「草出」（1391年）
↓
「草土」（1471年）
↓
「草戸」（1510年頃）

地名の変遷

20年以上にわたる発掘調査と併せて進められた史料調査では，調査研究の初期の段階では「史料にすらあらわれない」とされてきた**「草戸千軒」の古地名が記される史料**を次々と**発見**し，上のように地名が移り変わるという成果を上げました（以下「**地名変遷説**」とする。）。

これらの調査研究成果を引き継いだ当館では，常設展示室の「草戸千軒への招待」コーナーの整備に当たり，これまで展示してきた**「草戸千軒」の古地名が記される史料**を**改めて解読**し，地名の変遷以外に何か明らかにできないか，探ってみました。その結果は，次のとおりです。

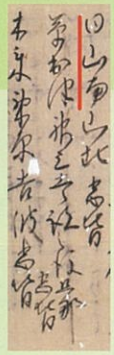
- ●14世紀末期には，現在の福山市草戸町の明王院辺り（草戸千軒町遺跡の西側周辺）は，「クサイツ（くさいづ）草土」（史料1）と表記されていた。ここには，明王院の前身の常福寺があった。
- ●「クサイツ」を漢字で書くと「草出」となり，草木が生い茂って枝を上に伸ばしているところという意味である。
- ●「草土」（クサト〔くさど〕）とは，草の生え茂った所を開墾して田畑や平地としたところという意味で，「草戸」とも表記された。1471年段階には，圓光寺末寺の東泉坊や応仁文明の乱での西軍方の城があった。
- ●「草出津」（史料2）は「草出」（クサイツ）の「津」（港）のことで，「草津」（クサツ）と省略して呼ばれた。1343年には時宗が，1485年頃には熊野那智大社が宗教活動を行っていた。



史料１　「草戸千軒」の古地名「クサイツ」「草土」

『西大寺諸国末寺帳』（1391年）の備後国の部分の写真（当館蔵レプリカ）

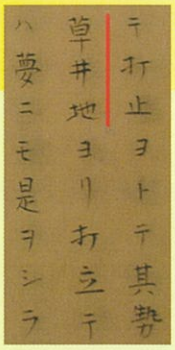
備後国には，西大寺の末寺として，尾道の浄土寺，大田荘の金剛寺のほか，「クサイツ　草土」に「常福寺」（今の明王院）があった（従来は，「クサイツ　草出」と読まれていた。）。



史料２　「草戸千軒」の古地名「草出津」

『熊野那智大社文書〈潮崎稜威主文書〉』の「草出津」の部分の写真（当館蔵レプリカ）。

文明17年（1485），御調郡の「山南・山北」（現在の福山市），「木来・栗原・吉波」（現在の尾道市）とともに，「草出津」の「神上寺」の跡の後ろの住人が，「悉皆」（全て）熊野那智大社へ参詣することを記す。



史料３　「草戸千軒」の古地名「草井地」

『太平記』巻29の「草井地」の部分の写真（重要文化財菅茶山関係資料『福山志料』巻之30，当館蔵）。

足利直義に味方する上杉朝定が「草井地」を出発して敵方を追いかけたことが記される。

●「草井地」（クサイチ，史料3）は「草出」の「井地」（市）のことで，「クサイチ」（草市）と省略して呼ばれた。「くさいち」と墨書された木簡（史料4）が草戸千軒町遺跡の15世紀後半の溝（SD510）から出土している。

史料４　「草戸千軒」の古地名
「くさいち」

草戸千軒町遺跡の溝（SD510）から出土した木簡の写真と墨書の解読文。（当館蔵）
串柿五把を「くさいち」の今倉殿という土倉に差し上げる，という内容。

以上のことを踏まえて，「草戸千軒」の町の立地に即して「クサイツ」「クサト」「クサツ」「クサイチ」の関係をまとめてみます。

芦田川は，現在の福山市御幸町辺りから南南西へ流れますが，現在の山手小学校辺りで東に向けて流れを変えます。「草戸千軒」の町は，この流れの右岸・南側にありました（左下図参照）。

この「草戸千軒」の町の中を模式的に表したのが，右下の図です。**「草戸千軒」の古地名が記される史料**の解読の成果を基に，作成しました。

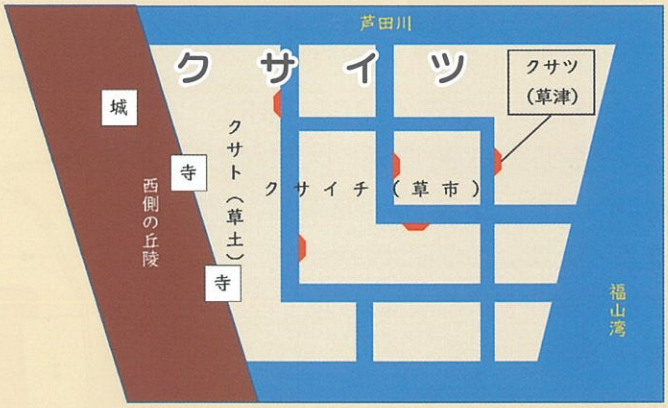
まず，芦田川河口の右岸には，西側に山並みを有し，北から東・南へかけての川や海に向けて草の生い茂った「クサイツ（くさいづ）」というところがありました。

人々は，この「クサイツ」の山際の微高地辺りを開墾して田畑や平地を造り出していき，そこを「クサト（くさど）」と呼びました。14世紀には常福寺の本堂・五重塔が建ち，15世紀後半には圓光寺末寺の東泉坊が建てられていました。

「クサイツ」の北から東・南にかけての川や海からは内部へ向けて水路が整備され，その所々には港が造られ，人々はそこを「ツ」と呼び，「クサツ」と略しました。

「クサイツ」には市も立ち，人々は「クサイチ」と略しました。ここは，所々の「クサツ」をつなぎ，「クサト」と接していました。

以上のように，**「草戸千軒」の古地名**は，「草戸千軒」の町の空間構成を表しているのではないかと，私は考えています（以下「**空間構成説**」とする。）。歴史研究は，こうした説の積み重ねによって進化・深化していきます。今後の当館の調査研究活動にも，是非御期待ください。



「クサイツ」の空間構成

なお，最初に触れたように，「草戸千軒」の町は16世紀初頭に一気に消滅したことが発掘調査によって明らかにされています。このことは，「クサツ」（港）と「クサイチ」（市）が消滅したことを示しています。「クサト」「クサツ」「クサイチ」から構成された「クサイツ」のうち，「クサト」のみが存続したので，それゆえ「クサイツ」という地名は不要となり，「クサト」のみが現地に伝わったことが，この空間構成説に立てば，「なるほど」と理解されます。

詳しくは，『広島県立歴史博物館研究紀要』第23号又は当館HPを御覧ください。　（木村信幸）

最近の調査・研究から2

菅茶山の時代の廉塾の変遷について

廉塾は，備後国神辺宿に菅茶山（1748～1827）が，寛政3年（1791）に始めた私塾で，寛政8年（1796）に福山藩へ塾建物と塾田を献上し，翌年郷校となりました。

郷校となった廉塾の，各村にあった塾田は，世話人と呼ばれる人たちによって管理され，毎年奉行所に報告されていました。

ここでは，文政8年（1825）に奉行所へ報告された土地の名寄帳の写し「素読所附田畑絵図面」と図面「廉塾周辺図」（写真1）から読み取れる廉塾の土地・建物の変遷について，紹介します。

菅茶山が整備した塾建物の変遷

安永4年（1775）「金粟園（きんぞくえん）」という家塾を自宅で始める。
寛政2年（1790）山陽道の北側の土地を造成し，廉塾を建てる。
寛政3年（1791）塾の機能を現在の廉塾に移す。
寛政8年（1796）福山藩に献上を願い出て，翌年郷校となる。槐寮を建てる。
文化2年（1805）新塾を建てる。
文化3年（1806）南寮と塾門を建てる。
文政7年（1824）敬寮を入手する。
文政8年（1825）書庫を建てる。養魚池を整備する。

1　寛政9年（1787）段階の廉塾

郷校となった時の廉塾は，図1の東西に流れる水路の南北にある「土手」と「前」の部分でした。この時点では，まだ南寮や門は建てられていませんでした。南寮や門がある場所は，菜園として利用されていたようです。

廉塾の最初の空間は，この「土手」と「前」の垣に囲まれている内側ということになります。

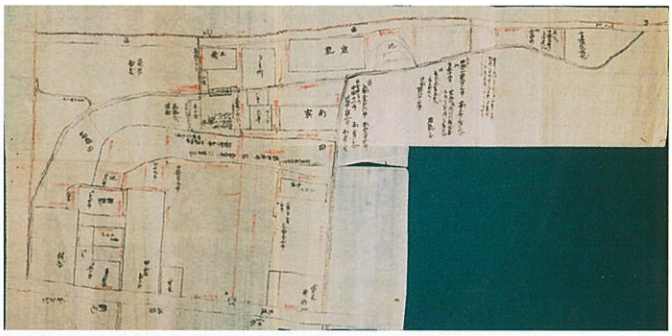


写真1　廉塾周辺図（重要文化財菅茶山関係資料，当館蔵）

2　文化2年～3年（1805～06）段階の廉塾

森鴎外の歴史小説『伊澤蘭軒（いざわらんけん）』に，蘭軒が廉塾を訪れた文化2年には槐寮（かいりょう）があったことが記されています。槐寮は，写真1の「タイ所」の場所に当たります。

また，図の左中央付近にある新塾が整備されたのが文化2年でした。新塾が建てられた土地は，文化元年（1804）に入手し，その翌年に新塾が建てられました。この土地の証文には，「敬治」と記されていて，この時，講師として茶山の補助していた松下敬二のことだと考えられます。茶山は松下敬二に「家を為す」ことを勧めていて，松下の居宅も兼ねていたと考えられます。

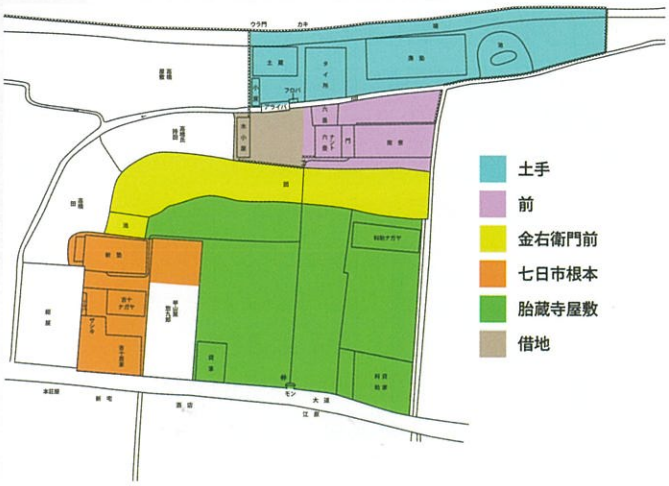


図1　廉塾模式図　※廉塾周辺図から作成

その翌年の文化3年に，「前」の場所に南寮と塾門が整備され，この段階までに廉塾の中心的な建物が整備されたことになります。

3　南側の土地の入手について

「土手」と「前」を合わせた垣に囲まれた部分が「塾」の空間と認識されていたと考えられますが，その南側の土地はいつ入手したのでしょうか。廉塾に残された土地証文を見ていくと，垣のすぐ南側の「金右衛門前」とその南側の「胎蔵寺屋敷」が文化5年（1808）に入手されています。

新塾が建てられた「七日市根本」は文化元年，文化7年，文政7年と段階的に入手されています。

このうち，文政7年(1824)に入手した新塾東側に敬寮があったと推定されます。

4　まとめ

廉塾の建物と土地の変遷について紹介してきましたが，茶山は，現在の中門のことを「塾門」と記述していることから，最初期に整備された垣の内側である「土手」と「前」の場所を塾空間と認識していたと考えられます。

茶山は，質素に生活し，塾田や儒学料等の収入から余裕ができると塾田や土地，建物を入手し，教育環境を整えていきました。特に茶山の最晩年には，塾の後継者の問題もあり，その生活環境も整えようとしていました。

（岡野将士）

速　報

生まれた子を思う親の気持ち－父 岡本花亭と子 平岡円四郎－

今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」で，注目された平岡円四郎は一橋慶喜に仕えた幕臣でした。

円四郎は，文政5年（1822）に，幕臣である岡本花亭の四男として生まれました。後に平岡家の養子となり，一橋家の家臣となりました。実父岡本花亭は，勘定方に勤める幕臣で，漢詩の名手としても知られた人物でした。菅茶山とも親しく交流しています。

円四郎が生まれた時の気持ちを父花亭が詠んだ漢詩が，重要文化財菅茶山関係資料（写真2）に残されていました。

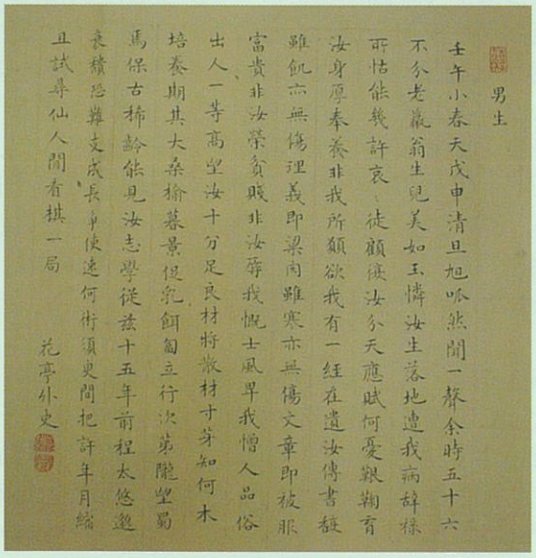
円四郎が生まれた時，父花亭は，文政元年（1818）貨幣改鋳に意見したことで，役職を解かれていた不遇の時代でした。経済的に苦しい中，生まれた我が子に自分が残せるものは何か，大切にするものは何か，と案じています。どれほど時代が移り変わっても，親が子を思う気持ちに変わりがないように思います。我が子に伝えたかった生き方を証明するように，花亭は，天保8年（1837）に，老中水野忠邦から中野代官に抜擢され，後には勘定奉行にまでなりました。

（大意）

文政五年の秋、早朝に玉のように美しい男の子が生まれた。私は五十六歳の老人で、しかも仕事を辞めて収入がない。そんな所に生まれたことを不憫（ふびん）に思う。無事に育てられるか不安もある。

しかし、私は儒学の本の教えを拠り所に生きてきた。お前にはその生き方を伝えよう。世界を成り立たせる法則（＝理）や、正しい行い（＝義）とは何かを学ぶことは、お前の血や肉となって内面を作る。理と義を理解した身から出てくる行動や言葉は、自分というものを伝える手段となって、外面を作る。出世したから優れた人物なのではない。貧しいから駄目な人物なのではないのだ。

私はお前が、学問を身につけ、誇り高く生きるよう望んでいる。お前にはその才能があると信じている。そして、お前が学を志すといわれる十五歳の時、私は古稀（七十七歳）となっている。それまで生きているかも分からない。だから、仙人を訪ねて時間を縮め、なんとかしてお前の成長を早めることはできないだろうか。


男生

壬午小春天戊申清旦旭吟然聞一聲余時五十六
不分老羸翁生兒美如玉憐汝生落地遭我病辭祿
所怙能幾許哀、徒顧復汝分天應賦何憂銀鞠育
汝身原奉養非我所願欲我有一紘在遺汝傳書殺
雖飢而無傷理義即粱肉雖寒亦無傷文章即被服
富貴非汝榮貧賤非汝辱我慨士風早我憎人品俗
出人一等高望汝十分足良材將散材寸芽知何木
培養期其大桑榆暮景促乳餌匍立行次第隴望蜀
馬保古稀齡能見汝志學從茲十五年前程太悠邈
衰積恐難支成長事使速何術須臾間把許年月縮
且試尋仙人問有棋一局　花亭外史

写真2　五言古詩「男生」　岡本花亭

詳しくは，『広島県立歴史博物館研究紀要』第23号又は当館HPを御覧ください。

※この資料は，8月6日（金）から9月26日（日）まで，近世文化展示室で展示しています。

最近の調査・研究から3

掘り出されたお金が語る
－草戸千軒町遺跡調査研究報告から－

草戸千軒町遺跡から出土した，多種多様かつ膨大な遺物の中に「銭」があります。埋甕に130緡（13貫文）を収めたものや，50緡（5貫文）を薦（マコモなどで編んだむしろのこと。）などで包んで紐で括ったと見られる銭塊は，いわば“金庫”として地中に埋めることで保管したのでしょう。地中に保管する場合は別として，不用品として地中に埋もれるようなことは想定し難いものです。出土の様相を整理すると，この一括銭と銭塊以外に，時期や場所を問わず遺跡の各所から出土しており，総数は約3,500枚になります。

130緡の銭を収めた埋甕
（内部には銭の一部が見えます。）

具体的に出土状況をみると，まず建物では，柱穴の埋め土に含まれる例があり，柱を立てた際に入れたことが推定されるものや，礎石の下に置く例もあります。両方の場合とも確認した枚数は1枚です。井戸では，底の位置から13枚・31枚・54枚が出土した例があります。井戸を築造した際，井戸として使用している際，埋立ての最初の段階のいずれかで銭を入れたことになります。また，底に敷いた礫の間から13枚出土した例があり，これは井戸を築造した際に銭を入れたものです。墓では，木棺の中に“六道銭”として6枚を入れた例があります。こうした銭については，埋葬や供養のほか，住居や家族の安泰，浄水の安定的な取得などの願いや祈りが込められていたことが想定されます。

50緡を薦で包んだ銭塊

さらに多くの銭がまとまって出土した例に，SK1300土坑があります。この土坑は，町の改変に伴って大量の不用品を廃棄・投入した遺構と推定され，径6～8m，深さ1.2mの規模の土坑内各所から，土器・土製品など多種多量の遺物に混じって208枚の銭が出土しました。また，SB1781建物の廃絶に伴って整地された土層の中から，73枚の銭が見つかりました。この2例では，遺物は廃棄されたものであり，銭も廃棄品として扱われるものもあったことが想定されます。

208枚の銭が出土した土坑（SK1300）

以上のように，時期や場所を問わず遺跡の各所から出土していることや，その枚数から，当時の草戸千軒の町の中で，銭は広く使われていたと思われます。一方，出土状況から，銭を入れることを意図はしないが，遺構内に入ったものも相当数あるように見受けられます。所持者の身から離れて，いわば落し物として，地中へ散逸したり，遺構内へ埋もれたりしたのではないでしょうか。

銭について整理を進める中で，使用の状況や出土の背景がうかがえるようになってきました。詳細については，『草戸千軒町遺跡調査研究報告』第14集の「草戸千軒町遺跡の出土銭」に報告しています。当館のホームページにも掲載していますので，活用していただければ幸いです。

絣コレクションと絣ボランティア

ミニ展示「絣 －KASURI－」

平成31年度から,絣ボランティアの活動の成果を発表する場の一つとして,ミニ展示「絣 －KASURI－」を開催しています。年ごとに特集テーマを決め,整理が終わった作品の中からそのテーマに合うものを選び,展示しています。今まで3回行った展示のテーマは,第1回が吉祥文様（縁起の良いおめでたい柄）,第2回は植物文様,第3回が動物文様です。このコレクションの存在を広く知ってもらえるよう,メンバーが知恵を絞り,展示に工夫を凝らします。また,観覧して関心を抱いた人が,ボランティアに御参加くださることも期待しています。

ミニ展示「絣 －KASURI－」のチラシ

絣コレクション

当館は,寄贈された二つの絣コレクションと,寄贈予定の一つの絣コレクションを収蔵しています。

平成14年（2002）,最初に寄贈されたのが桒田コレクションで,故桒田春夫氏（福山市在住）が昭和29年(1954)以降,福山市及びその周辺地域で収集した637点から成っています。

地元備後絣をはじめ,伊予絣や久留米絣,山陰の絣も多く含まれており,最も古いものは大正期にまで遡るものが見られます。

花桐と重ね枡文（備後絣）

絣ボランティア

桒田コレクションを整理するために,絣ボランティアが結成されました。整理作業の内容を三段階に分けると,第一段階で点数・形状の確認を行い,第二段階では柄の分類と産地の見当（けんとう）を行います。第三段階では,寸法を測定し,資料カードを作成して,ようやく基本リストが完成します。

その後も,資料の観察を継続的に行い,詳細情報を資料カードへ追加していきます。ちなみに,桒田コレクションの整理では,リスト完成に至るまでおよそ2年を要しました。そして,平成20年（2008）には,桒田コレクションの目録を刊行することが出来ました。現在は,寄贈予定の三つ目の絣コレクションの整理が行われています。

「藍染をしよう」

メンバーは,それぞれ自宅で布を織ったり染めたりして経験を積んだ,知識と技術を兼ね備えた染織の専門家と言える人たちです。このメンバーが,毎夏に開催する「こども博物館教室」の「藍染をしよう」で,子供たちへの技術指導を行ってくださいます。子供たちに染色の楽しさを感じてもらい,郷土の伝統産業である備後絣についても関心を持ってもらいたいと,積極的に指導してくださいます。

今後も,絣ボランティアの活躍に御注目ください。

「藍染をしよう」での解説

新型コロナウィルス感染症予防と拡散防止についてのお願い

ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）では，次のように対応を行っています。
御来館予定の皆様には，御理解と御協力を賜りますようお願いします。（令和３年6月29日現在）

■御来館いただくまでに

○発熱や咳等の風邪症状があるお客様は，来館を御遠慮ください。
○マスクの持参に御協力ください。

■御来館いただいてから

○入館券購入を待つ間や展示を御覧いただいている間は，「三つの密」を避けるため，先にお待ちの方や展示を御覧いただいている方との間隔を，できるだけ2メートル程度あけてください。
○入館に当たっては，マスクを着用してください。また，用意しております手指消毒用アルコールを御利用ください。
○入館中は「こまめな手洗い」に御協力ください。各洗面所の液状せっけんを御利用ください。
○「三つの密」を避けるため，入館や展示室への入室をしばらくお待ちいただく場合がありますので御協力ください。
○鑑賞中などに体調をくずされた場合は，無理せずお近くのスタッフまでお声がけください。
○その他，来館されている間はスタッフの指示に従ってください。
※来館者が自由に触れることができる体験展示・VR遣明船は，当面の間，一部休止します。
※御来館時に体温の確認をさせていただきます。発熱がある場合は入館できませんので，あらかじめ御了承ください。
※緊急時，保健所等の関係機関に速やかな連絡を行うことを目的に，連絡先の御記入をお願いします。
※団体のお客様は，同時に入館できる人数に制限があります。詳しくは，博物館にお尋ねください。
※館内では，大きな声での会話などをお控えください。

定期休館日のお知らせ

休館日の月曜日が開館する場合，翌平日が休館日となります。
令和3年度は次のとおりです。（施設維持管理などのため，臨時に休館することがあります。）

開館する月曜日		休館日	開館する月曜日		休館日
8／ 9（振替休日）	▶	――――	1／10（成人の日）	▶	1／11（火）
9／20（敬老の日）	▶	9／21（火）	3／21（春分の日）	▶	3／22（火）
1／ 3（臨時開館）	▶	1／ 4（火）			

広島県立歴史博物館友の会からのお知らせ！

友の会では，令和３年度の会員を募集中です。
友の会の会員には，博物館が主催する展覧会を無償で観覧できるなど，特典が盛り沢山です。

歴史や文化に興味をお持ちの方は，ぜひ友の会にお入りください！！

友の会の活動については，QRコードから確認いただけます。

令和2年度の会員証は，令和3年度も有効です！（有効期間1年延長しています！）

新規の会費は次のとおりです。

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
家族会員	3,000円（同居家族５名まで登録できます。）
賛助会員	7,000円（会員証を４枚発行します。）

◇博物館の令和３年度の組織と職員です。（４月１日現在）よろしくお願いします。

館　長　◎佐藤　哲義　　歴史博物館アドバイザー　加藤　謙

総務課		学芸課		草戸千軒町遺跡研究所		（分館）頼山陽史跡資料館	
課長	◎好満　修	課長	木村　信幸	（兼）所長	木村　信幸	（兼）館長	白井比佐雄
主査	川上　慎治	主任学芸員	石橋健太郎	主任学芸員	尾崎　光伸	（兼）主査	◎宮浦　貴
主任	◎橋高　真理	主任学芸員	岡野　将士	主任学芸員	大上　裕士	主任学芸員	花本　哲志
ワークサポート職員	岡本　綾子	主任学芸員	久下　実	学芸員	◎岸本　晴菜	主任学芸員	渡部　史之
文化施設事務従事員	村上　祐太	文化施設事務従事員	細谷　紗桜	学芸員	◎猪熊はるの	（兼）主事	北浦　沙栄
				学芸員	下津間康夫	文化施設事務従事員	山口　邦子 青木香世美 井上麻由子 渡辺　康和
				文化施設事務従事員	吾田　朱里		

◎は新任。この他，広島県立歴史民俗資料館学芸員が，当館学芸員を兼務しています。

ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）ニュース　第127号

編集・発行　令和３年７月27日

ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）
HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒720-0067
広島県福山市西町二丁目４-１
TEL(084)931-2513　FAX(084)931-2514
URL：https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/
e-mailアドレス：rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp